

1年生「絵からうまれる音楽」

♪ いつも一生懸命学習に取り組む1年生。2学期に、タンブリン、すず、トライアングル、ウッドブロックなどの楽器を使って、「絵からうまれる音楽」を作りました。

「こっこっ」「しゃんしゃん」などの音を表す絵を見て、はじめに声で表現をしました。「音が高そう」「のびるかんじ」と、絵を見て感じ取ったことを音に上手に変換することができていました。

次に、楽器の鳴らし方を工夫してその絵に合いそうな音を考えました。いろいろな楽器をさわりながら、「ここかな?」「こうかな?」「それいい!」と、楽しそうに音探しをしていました。見つけた音は、みんなの歌う歌に合わせて演奏し、いろいろな鳴らし方で演奏したことで、みんなはさらに楽器を好きになっていたようでした。♪



その鳴らし方、いいかも!

ここにパチを
入れて鳴らすと…?

「こっこっ」って
聞こえるかな?



2年生

2学期は、鍵盤ハーモニカをたくさん練習しました。中でも2学期最後に練習した「小ぎつね」では、「ラファドラソ」の指使いが難しく、「むずかしい～」とみんな苦戦していました。しかしみんな諦めずに頑張ろうと、一心不乱に何度も1フレーズの練習を重ね、難しい指使いをマスターすることができました！2年生、とってもよくがんばりました。

3年生

覚えなくてはならない運指が増えて、より難しくなってきたリコーダー演奏。特に、低い「ド」「レ」の音をきれいにすることが難しかったようでした。「太い息」「ゆっくりとした息」の2つのポイントを意識して練習しました。宿題でも、何日もかけて練習をがんばった子が多くいました。きれいな音を出すコツをこれから少しでも多くつかんでほしいです。

4年生

組曲「動物の謝肉祭」の楽曲を鑑賞しました。「白鳥」では、滑らかで美しいチェロの旋律と、細かく動くピアノの旋律が表すものについて考えたところ、「白鳥が優雅に泳いでいるのかも」「水がゆらゆらしている様子」「お日様の光がきらきらしている様子」と、想像を膨らませて楽曲を楽しむことができました。また、「象」「ピアニスト」「亀」なども鑑賞し、その楽曲に隠された作曲者の意図についても楽しみながら考えていました。

5年生

山田耕筰の歌曲「待ちぼうけ」を鑑賞しました。1番から5番にかけて物語が展開していく中で、「作詞の工夫」「作曲者の工夫」「演奏者の工夫」を探しました。「1～5番すべて、『木の根っこ』で終わってるところのリズム感がいい」「4番からはゆっくり演奏して、悲しそうに歌っている」と、物語の展開に合わせて表現が変化している様子などを感じ取ることができていました。

6年生

滝廉太郎の作品の中から、3つの歌曲を鑑賞しました。それぞれの曲想に合わせて、「『花』はきれいな感じを女声二部合唱で表している」「『箱根八里』の強い感じを男声四部合唱で表している」と、合唱の形態も工夫されていることを学習しました。中でも「荒城の月」が混声四部合唱で演奏されているの理由を考えたときに、「不気味な感じを出すため？」「城の古さを男声で、月の光を女声で表しているのかも」と、持前の想像力をはたらかせることができました。